

(2) アンケートの自由記述 【学校関係者】 ○：成果

- 先生方の努力が良くわかりました。私達も地域で出来ることは協力していきたくと思います。(4)
- 評価委員会に参加できて、学校での子ども達のこと、また先生達の、学校をいろいろな面で向上させようとするのが良く分かった。学校は先生達だけではなくて、地域の人と一緒に子どもを育てていくということでは、学校評価ということは必要ではないかと思います。(3)
- 学校便りも事細かく書いていただき、こまめに発行していただいたおかげで少しは理解できるようになり、自分なりの評価は出来たのではと思います。(2)
- 学校評価委員会の説明、ビデオ等で生徒の活動の様子はよく分かる。(2)
- 学校は保護者の記述要望等について、即時に対応して改善されている。(2)
- 学校改善はPDCAの確実な実行で、保護者・児童生徒へ伝わり、生活面・学習面によく表れているようです。
- 自己評価に関してはアンケートの結果から、先生方が高い意識を持って教育指導にあたっておられるのが良く分かります。ただ食育や地域連携、他教育施設との連携などは先生個人や学校だけの課題ではなく、それぞれの家庭や地域の意識にも関わることとされますので、目に見える改善は難しいように思われます。結局のところ学校評価は地域全体の評価ということになるのでしょうか。
- 地域、学校、保護者の連携・協力もできていて良好だと思います。
- 学校を評価するという事は大変難しいことですが、学校や生徒をよりよくするためには必要なことです。これにより生徒や保護者との連携がこれ以上にできればと思います。
- 総じて評価が改善され定着してきたと思う。一部、学校関係者とPTAとの評価がズレるようなものも見えてきたが、このズレこそが多くのことを示唆していると思う。(例：授業のわかり易さ、理解度など) 残菜0については目標設置の基準を定めなおしてもいいような気がする。学力向上については、もう少しデータを準備していただきたい。学校評価は本校においては確実に成果をあげている。
- 学校の様子を知ることができ、良かったと思います。たくさんの人にそういう機会があればいいと思います。文化祭・バザー等は一つのよいチャンスだと思います。
- アンケートを2回とって、1回目より2回目の方の評価のポイントが上がったことは、少しずつ関心が強くなった成果だと思います。
- 地区との交流の場がたくさんありよかったですと思います。
- 学校からは8年あまり遠ざかっていましたが、役を押し付けられ今さら学校へ?と考える関心がなかったのは事実です。しかし今年度から孫もお世話になり、何かと足を運ぶようになりました。久しぶりに学校の内部も見えてきたような気がします。校長先生の熱心さ、教頭先生の一生懸命さ、それに後押しされて先生方のやる気も感じられました。またそれに劣らない保護者の団結力も素晴らしいものだと思います。少人数で小さな学校ですが、私は日本一素晴らしい学校だと信じています。

【学校関係者】 ☆：課題等

- ☆ 学問は先生（教師）にたよります。その道のプロですから。
- ☆ 質問の内容について、学校授業・行事等での中身がどのようになっているのか、授業に参加していないところがわからない部分があるのではないか。（2）
- ☆ （会議に1年間出席して）学校の取り組み・方針などがよく分かりてもよかったと思います。他の方（保護者）にももっとわかりやすくした方がいいと思います。会議に出席しないとわからないことがたくさんあるので、何か良い方法があればお願いします。
- ☆ 不登校関係、学力向上の評価が、全国平均との比較でよいのか、アンケートでよいのか大変難しい。
- ☆ 評価も大切ですが、現場を知らない人の意見を受け入れるのは大変難しいことだと思います。細かい項目はやはり現場の先生と保護者との検討で良いと思います。その結果を伺ってからの意見だと出しやすいのではないかと思います。
- ☆ 評価を受けることによって、先生達が個性的な指導をすることが狭まれているのではないかと思います。反面、行き過ぎた指導や公正さが保たれるのではとも思います。第3者的な目が自分に一呼吸考えるきっかけ作りができるのではないかととも思います。
- ☆ 保護者から意見を聞くのも大事だと思うが、評価というと固く感じられ、ここまでする必要があるのかと疑問があり、保護者（言うだけの者）の言いなりにならないか不安になります。誰のための学校かわからなくなると思います。
- ☆ 開放された組織（学校）となり、地域社会になじんでいくと思う。面倒になると思うが、投書・苦情の電話が来るようになればより良いのでは！関心を持たれているということ。
- ☆ 正直なところ、学校評価を行うというのが意義あることなのかどうなのかよくわかりません。親としては学校を信頼して通わせているので、親と学校とのコミュニケーションが取れていれば「評価」をする必要がないと思います。信頼の上に立ってこそ教育が成り立つのであると考えます。

## (2) アンケートの自由記述 【教職員】

### 3 参画体制の手立て

- ・ 校内組織及び校務分掌に関して、各担当者が自覚を持って取り組めるよう、学校教育目標の具現化をプロジェクトを基に取り組んだ。(同主旨多数)
- ・ 各プロジェクトを中心にPDCAサイクルにのっとり教育実践に努めている。(多数)
- ・ 協議のための時間を校内研修という位置付けでとり、常に共通理解を図った。
- ・ 共通理解及び各担当者が話し合う時間を計画的に設定し、理解を得られる環境作りを行った。職員会議等において、計画に沿って全職員で提案・協議等を行った。
- ・ 項目ごとに校務分掌を参考にして、担当者を決めて取り組んだ。また、職員には自己申告書に生かすように指示した。当事者意識も高まっていると感じている。
- ・ いつも学校評価目標が意識できるよう評価の総括表をラミネートし、すぐ見えるようにした。

### 6 情報発信の工夫

- ・ 3回の学校関係者評価委員会では、表やグラフ等と関連させながら、より分かりやすいように工夫して説明した。その上で質疑を行った。(同主旨多数)
- ・ 事前に資料を持参し説明をした。子どもの姿が伝わるように授業参観や行事参観をしてもらった。また、パワーポイントで具体的に説明する。
- ・ 学校便り、ホームページ、集会、懇親会等あらゆる機会に情報発信が出来た。(多数)
- ・ メールによる発信。また、学校便りに返信欄を設け、双方向の情報伝達に努めた。
- ・ 授業参観、給食参観、給食試食、休み時間の参観など、教師と子ども達のありのままの姿や校内の様子を見せ、ダイレクトな情報として受け取っていただいた。

#### 1.1 特に改善が大きかった点

- ・ 携帯へのメール配信により情報がより速く確実に became。
- ・ 各プロジェクトの機能を明確化したため、責任を持った参画意識が高揚した。
- ・ 学校評価活動、教育活動に、プロジェクトを中心に組織的に取り組むことができた。また、組織の中の個人としての意識や取り組みについて強化することができた。
- ・ 行事の精選と体育大会や文化祭、音楽会等への地域住民の参加。小中交流の推進。
- ・ 開かれた学校を目指したことで、地域の人々の行事等への参加も増し、学校や児童生徒の全体的な様子についての関心もさらに高まったと思う。
- ・ 担当者だけでなく、全担任が目標達成に向けて組織的に行えた基礎学力の向上や読書指導の推進などについては、特に成果があった。
- ・ 即実行(改善)できるように職員に知らせ、共通理解を図った。

#### 1.4 結果公表に係る情報発信の工夫

- ・ 学校評価の冊子とホームページ、学校便り、メール配信での公表。(同主旨多数)
- ・ 教職員、児童、保護者の学校評価アンケートの結果については、グラフ化し考察も添付し全保護者に冊子として配布した。また、保護者からの要望や自由記述については、記名があった分について各担任及び担当者が直接電話で回答を行い、理解してもらった。さらに、本校ホームページ上に結果を添付し公開する予定である。
- ・ アンケートデータをグラフ化し、分かりやすくまとめたものを直ちに配布した。

## 自由記述 【教職員】

- ・ 限られた時間の中での学校評価の目標設定、実践、評価、改善が多忙感をあおることのないように、計画的であり、見通しを持ったものであり、簡単であることに努めた。しかし、それでも時間が足りない。改善していく必要がある。職員の年2回の自己評価の活用と学校関係者評価の連動はうまくいったのではないか。
- ・ PDCA サイクルをもとにした学校評価を全職員で行うことにより、どの項目が良くできているか、できていないかを各個人が把握し理解することができた。その結果をもとに、プロジェクト間、全体で話し合い、今後の指導改善に役立てることができた。全職員で総括できたので、全員が同じ方向性をもって取り組もうとする姿勢が生まれ、共通理解のもと指導にあたることができていることが、本校の良い点である。
- ・ 保護者アンケートや児童アンケートでは、昨年度に比べ、どの項目も良い方向に伸びている。全職員の日頃の取り組みと対応が、この結果として表れていると考えられる。
- ・ 学校運営や教育活動においては、職員のやる気そのものが一番の要因であると考えられる。本年度学校評価の計画の段階から、年間を通した振り返り、改善といった全体の流れを、各プロジェクトがPDCAのサイクルで取り組み、その思いや実践を全職員で共有して取り組めたことは、学校の組織としての力を強化することになった。さらに、内部評価はもちろん外部（保護者）評価からも、良い評価を受けたことで、職員のやる気そのものに結びつく学校評価となったと言える。
- ・ 学校評価のアンケートでは、匿名性の担保はよく言われることであるが、今回保護者からの要望の自由記述欄に関しては、記名を求めた。なぜ匿名でないのかという指摘も受けたが、結果として、それぞれの保護者に直接電話などで連絡を取り、説明し、理解を得て、保護者とつながることができたのは良かったといえる。また、担任や担当で対応することにより、職員が責任を持って教育活動にあたることにもつながった。
- ・ 今年度より勤務時間が16:35までとなったため、会議の時間確保に余裕がなかった。たった15分の差ではあったが、実際にはそれ以上に感じた。日々、勤務時間を超えて労働しているのは当たり前なことではあるが、計画の段階で勤務時間を無視したような時間帯の設定はできないので苦慮しています。
- ・ 学校評価に関する保護者への理解を深める手立ての工夫が必要である。（PTA総会や教育の日にも参加しない保護者へどう理解を深めていくのか）
- ・ 校長、教頭の共通理解、意思疎通、協力、協働、連携・・・がないと学校評価を生かした学校改善にはつながらないと思います。温度差がありすぎでは学校経営もうまくいかないと思います。管理職の意識も変革が求められているのではないのでしょうか。
- ・ 学校側の思いと保護者の思いに「ズレ」が生じていることはやむを得ないが、そのズレを最小にとどめ学校理解を推進することが学校の役目である。
- ・ 第三者評価が3年に1度程度あっても良いように思う。また学校関係者委員を誰にするかで、かなり評価が違ってくるようにも思われる。
- ・ 学校評議員の方々の率直な意見は、より一般市民の考えに近いものと思います。
- ・ 児童生徒の評価により、大まかな子どもの意識を把握でき、指導の参考にできる。
- ・ 評価も改善すべき点の洗い出しと考えれば、学校への意見も有意義と思える。